

令和7年度も4か月が過ぎようとする 7 月末となりました。この間、皆さんの活動を見守る中でも、あらためて蟻ヶ崎高校は落ち着いていて生徒たちの姿が美しい学校だなと思う風景にたくさん出会いました。学習活動、部活動、生徒会行事、探究と、何事にも全力で物事に取り組む姿勢は本当に立派でした。先日のぎんが祭では、節度ある行動の中に高校生らしいはつらつとしたエネルギーを感じることができ、素晴らしい 77 回の文化祭であったと感じています。今年は、傳刀会長を中心に、市内 4 校で松本市全体を盛り上げたいという思いも込めて合同の文化祭開祭式を計画実行してもらいました。こういった、前例のないものを「やってみる」姿勢は、これからの時代を生きていく皆さんの、大きな力になっていくことと思います。

皆さんにも生徒会を通じてアンケートも取らせていただきましたが、今年度長野県教育委員会では「県立高校特色化方針」を出し、長野県の公立高校全校に、「それぞれの学校の特色」を出していくことが求められています。これは、中学生に対し、偏差値だけでなく各校の特色を元に高校選びをしてほしいこと、また各高校には、今まで培ってきたそれぞれの特色に加え、他校と差別化する とするとどんなことが特色なのか をあらためて考えるきっかけにしてほしいという意図も含んでいます。皆さんは蟻ヶ崎高校の特色はどんなことで、さらにどんなことを特色としていく方向性が良いと考えますか？5 月 23 日に行った、四者協議会において、生徒会役員の皆さんと PTA、同窓会、職員の話合いが持たれました。時間が足りなくなるくらいの熱心な意見交換で非常に楽しい時間にもなりましたが、その中で出された蟻高の特色として、

- ・「やりたい」という気持ちを応援してくれる学校である
- ・治安が良い
- ・自由度が高いが節度守れる
- ・好きが個性になる学校 という意見がだされ、保護者同窓会からは
- ・文武両道の中で自分の「好き」を追究する姿が昔から全く変わっていない学校だ という意見をいただきました。

これらの意見を含め、先日のぎんが祭でのイルミで掲げられた「駆け抜けろ青春！終わらずな可能性！夢はかなう！」こんな皆さんの、今を一生懸命生きようという溢れる思いを本校の特色として前面に出していければ と感じているところです。

さて、皆さんは高校生という時間を重ねる中で、どんな自分になっていきたいか、大人になっていくという未来への道のりを、思い描くことはできそうですか？

5月5日の子供の日、信濃毎日新聞の斜面欄で、「きみはいつおとなになったんだろう」という長田弘さんの詩を見つけました。「深呼吸の必要」という本の中の、「あのときかもしれない」という 9 つの散文につづられた、ぼくはもうこどもじゃない、おとななんだ とはっきり知った「あのとき」が子ども時代のきらめきを掬い上げながらつづられています。「きみはいつおとなになったんだろう」

- ・ほかの誰にも代わってもらえないきみという 1 人の人間にしかできなかったと知った時

- ・歩くということがきみにとって、ここからそこにゆく というただそれだけのことにすぎなくなってしまったとき
- ・ある日ふと、誰からも「遠くへ行ってはいけないよ」と言われなくなったことに気づいたとき
- ・好きだろうがきらいだろうが、とにかくきみには、きみにちょうどの背の高さしかこの世の中にはないんだってことに、初めて気がついたとき
- ・「なぜ」を元気に考えるかわりに、「そうになっているんだ」という退屈な答えでどんな疑問もあっさり打ち消してしまうようになったとき
- ・ひとを、直列的にでなく、並列的に好きになるということが、どんなに難しいことかをほんとうに知ったとき
- ・1 人の完全な人ではなく、誰ともおなじ 1 人の不完全な人の姿を、夏の日暮れのグラウンドで、遠くからきみの父親の姿にみつめていたとき
- ・きみがきみの人生で「こころが痛い」としかいえない痛みを、はじめて自分に知ったとき

大人の私でもいつ大人になったか問いの答えは見つけれません。そしておとなになるという経過の中で、大切なことを捨ててしまったことにも、今気づかされます。

皆さんには子どもとおとなの狭間で揺れ動く心の葛藤を受け止めながらも、大人になっていくという日々の、その1分1秒も大切に愛おしい時間である ということを心に留めてほしいと思います。こどもは夏に大きく成長する と言われます。この夏をどう過ごすかで、未来も変わってくるかもしれません。やりたいこと、打ち込みたいこと、それぞれの時間を、自分自身と向き合って充実した夏休みにしてほしいと期待しています。